

科目名	教育社会学			ナンバリング	SOC163	授業形態	講義
対象学年	3 年	開講時期	後期	科目分類	選択	単位数	2 単位
代表教員	赤羽由起夫	担当教員					

授業の概要	本授業は、受講者が教育社会学を学ぶことによって、日本の教育の実態についての知識と、それを社会学的に理解する力を身に付け、教育に関する自分の考え述べることができるようにすることを目的とする。そのために本授業では、まず、教育と教育社会学に関する基礎的な知識を解説したのち、①教育問題、②家庭教育と幼児教育の変化、③ジェンダーと教育の関係、④「学歴社会」の変貌と「格差」、という4つのトピックを通じて、日本の教育の実態とその社会学的な理解の方法について解説していく。						
到達目標	1. 教育と教育社会学に関する基礎的な知識を身に付けることができる。 日本の教育の実態とその社会学的な理解の方法を身に付けることができる。 育に関する自分の考えをレポートにまとめることができる。2. 3. 教						
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な 予備知識など)	本授業の内容の多くは、教育を受けてきたすべての人とかかわりのある現象であるため、履修に必要な予備知識は特にない。本授業で扱った教育社会学の考え方や日本の教育の実態についての知識を、自らが受けてきた教育と関連づけて考えたり、自分で調べたりして、その内容をレポートにまとめること。						
ディプロマポリシーとの 関連	【教養学部 地域教養学科のディプロマポリシー】						
	○	1. 専攻分野それぞれの基礎的な知識を確実に身につけ、それらを活用して基本的な問題を解決することができる。					
		2. 専攻分野それぞれの基本的スキルを、地域社会に貢献するために活用することができる。					
		3. 自分の意見や考えを説明し、他者と協調して積極的にコミュニケーションをとることができる。					
	○	4. 広い視野と論理的・批判的思考力を身につけ、困難な課題や予測不能な事態に直面しても適切に対処することができる。					
		5. 社会の一員としての自覚を持ち、社会生活の場において、地域を支える社会人・職業人としてふさわし関心・意欲・態度を示すことができる。					

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
①毎回の授業において、授業の内容に沿った意見・感想・質問などをリアクションペーパーに書ける。 教育と教育社会学に関する基礎的な知識を身に付けている。 日本の教育の実態とその社会学的な理解の方法を身に付けている。 課題に沿った内容で、定められた形式のレポートを書ける。② ③ ④	①毎回の授業において、授業の内容の深い理解にもとづいた意見・感想・質問などをリアクションペーパーに書ける。 ②教育と教育社会学に関する基礎的な知識を深く理解し、説明できる。 ③日本の教育の実態とその社会学的な理解の方法を深く理解し、説明できる。 ④課題に沿った内容、定められた形式で、主張に論理一貫性があり、主張の根拠が明示されたレポートを書ける。

成績評価観点 評価方法	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合
定期試験(中間・期末試験)							
小テスト・授業内レポート							
宿題・授業外レポート	○	○	○		○		70%
授業態度・授業への参加							
リアクションペーパー	○	○	○		○		30%

課題、評価のフィードバック	1. 毎回のリアクション・ペーパーの内容について、次回の授業のはじめにコメントする。
---------------	--

	回次	テーマ	授業内容	備考
授業計画	第1回	オリエンテーション	1 本授業のスケジュール・内容・評価方法などの説明、2 レポートの課題・形式・評価方法などの説明	
	第2回	教育社会学の学説史	1 子ども・社会化・教育、2 教育社会学の成立、3 機能主義、4 葛藤理論	
	第3回	教育問題の社会学①——いじめ	1 いじめとは何か、2 社会問題としてのいじめ、3 いじめの社会学	
	第4回	教育問題の社会学②——少年犯罪	1 少年犯罪とは何か、2 少年犯罪の報道、3 少年犯罪の実態、4 なぜ少年犯罪は減少しているのか？	
	第5回	教育問題の社会学③——不登校	1 不登校とは何か、2 不登校の実態、3 不登校問題の歴史的変化、4 不登校の社会的背景	
	第6回	家庭教育と幼児教育の変化①——しつけと家庭教育の変化	1 社会化としつけ、2 「家庭教育力」は低下した？、3 よりよく子どもを育てること、4 「家庭教育力＝低下」説の背景	
	第7回	家庭教育と幼児教育の変化②——幼児教育・家庭教育の階層格差	1 幼児教育・家庭教育と階層格差、2 幼児教育と社会階級と言語コード、3 家庭教育と学業成績、4 メリトクラシーからハイパー・メリトクラシーへ	
	第8回	家庭教育と幼児教育の変化③——選択される幼児教育	1 わが国の育児支援と育児産業、2 子ども教育産業の興隆、3 育児情報産業と育児雑誌、4 育児産業の興隆を支えるもの、5 親の自己実現としての子育て、6 教育の市場化とベアレントクラシー	
	第9回	ジェンダーと教育の関係①——学校化される(女)と(男)	1 なぜ男子大学はないのか、2 国民皆学と男女別学、3 中等教育における「男らしさ」「女らしさ」の形成、4 知識と「男らしさ」の結合	
	第10回	ジェンダーと教育の関係②——ジェンダーと隠れたカリキュラム	1 二分法の「隠れたカリキュラム」、2 学校の中の「隠れたカリキュラム」、3 教室におけるジェンダーの形成	
	第11回	ジェンダーと教育の関係③——ジェンダーと進学	1 就学経路上の性差を認識する、2 高等教育への進学、3 高校における文理選択	
	第12回	「学歴社会」の変貌と「格差」①——完璧な能力主義社会は可能か	1 教材として映画を鑑賞する、2 メリトクラシーについて考える	
	第13回	「学歴社会」の変貌と「格差」②——日本社会はどこまでメリトクラティックか？	1 学歴社会とは？、2 学歴社会とメリトクラシー、3 失敗の納得のしかた、4 学歴と職業的な能力	
	第14回	「学歴社会」の変貌と「格差」③——教育の格差拡大と学歴社会の変貌	1 学歴の急速な拡大、2 教育の拡大は学歴社会をどう変えたのか？、3 努力主義の終わり、4 教育の多様化とその影響	
	第15回	まとめ	第1回～第14回の授業のまとめ	
	試験	試験は実施しない。		
授業の進め方		レジュメ・資料を配布し、講義を行います。		
授業外学習の指示		授業で配布したレジュメ・資料や板書の内容を復習する。授業の内容で興味関心をもった現象や事例があれば、授業で提示した参考文献や資料などを参考にしながら、それを自分で調査して、その結果をもとにレポートを作成する。 （授業外学習時間： 毎週 60 分）		

教科書	教科書を使用しない。レジュメ・資料を配布する。
参考書	適宜、授業内で紹介する。
参考URLなど	
その他	